**DERWENT-ACC-** 1976-56936X

NO:

**DERWENT-**

197630

**WEEK:** 

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE:

Heat sealing interlining cloth prodn. - by coating woven or non-woven fabric

with two different adhesives

PATENT-ASSIGNEE: JAPAN VILENE CO LTD[NIVL]

**PRIORITY-DATA:** 1974JP-0138873 (December 5, 1974)

**PATENT-FAMILY:** 

PUB-NO PUB-DATE LANGUAGE PAGES MAIN-IPC

JP 51067462 A June 11, 1976 N/A

000 N/A

JP 84020794 B May 15, 1984 N/A

000 N/A

INT-CL (IPC): A41D027/06, B32B017/12, C09J003/14, D06M017/00, D06N007/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 51067462A

#### **BASIC-ABSTRACT:**

Title cloth, which exhibits excellent fastness to dry cleaning and hot washing, strong adhesive power under pressing at 150 degrees C for 10 seconds and has a long storage life, is produced by applying to the foundation, (1) a hot melt curing adhesive and drying, and (2) a thermoplastic adhesive which contains a catalyst for curing and drying. The adhesives are so designed as to melt together upon application of heat and pressure. (1) is a copolymer which contains glycidyl, methylol and other reactive radicals. carboxylic anhydride, paratoluene sulphonic acid, etc. are used as catalyst. (2) is polyethylene, polyamide or any conventional adhesive.

TITLE-

HEAT SEAL INTERLINING CLOTH PRODUCE COATING WOVEN NON

**TERMS:** 

**WOVEN FABRIC TWO ADHESIVE** 

**DERWENT-CLASS:** A35 A94 F06 G03 P21 P73

**CPI-** A11-B05; A11-C01C; A12-C03; A12-S05M; F03-D01; F03-E01; F04-C; G03-B02D;



# (42)

昭和 47年10月20

特許庁長官殿

1発明の名称

ショウス(キョウヨウメアキンソ・シー セイソウホウホウ 井 本 毎 用 教 曽 幸 子 の 製 造 方 法

明 者

> 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器產業株式会社內

(行办2名)

3 特許出願人

大阪府門真市大字門真1006番地 住 劢 名 称

(582) 松下電器產業株式会社 松 F Œ

化 汲 者

4 代 理 T 571

Æ. Ħέ

. 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

(5971) 弁理士 中尾 敏 男 名

(連絡先 電話(PCR) 453-3111 特許部分室)

#### 5 添付書類の目録

- 明 細 卋 (1) (2) 図 तिर्व
- 悉 任 状 (3)
- (4) 願書副本

特許庁 47.10.23 田田地區

1 通 通 1:通 通 1

47 105485

19 日本国特許庁

49 - 64243 ①特開昭

6 昭49.(1974) 43公開日

47-105485 21)特願昭

昭47.(1972)/0.20 22出願日

未請求 審查請求

(全5頁)

庁内整理番号

52日本分類

6462 22 6462 22 6921 46 91 CZZ

しかし、水道水の本来の目的を考えてみて 現在市販の浄水器においては、活性炭で塩素やカ 除去したあどの誰通水には軟悪能がないた 飲細菌をよび大腸膨脹が浄水器の確遇水部に 繁殖することが考えられる。 このような細菌汚染の危険性を海北して市販浄水 粉に被菌姿置を設ける必要がある。 水の 救贈削と していろいろ考えられるが、浄水器本来の目的と して水の吹をそとなわないととから水に羅港性の 銀塩が適当と考えられ、銀塩の沸解度の銀点から 塩化銀(水に対する溶解度 1 O<sup>-5</sup> mo*l/l*)臭化銀 ョゥ化銀(10<sup>-8</sup> mol/t)を選択し、 特に塩化銀について以下に説明を行なう。

銀鼠用の浄水器に被雷能を付加させる手段とし 看来活性炎を用いた確布と

発明の名称

器用被額素子の製造方法

基根上に樹脂接着剝を塗布し、 20 の硬化前にとの止から数菌作用を有する 塩粒子を付着させるとともに、上記難溶性銀塩粒 子を上記機蹈接着剤に押し込むように加圧し、 かる後上記樹脂接着剤を硬化させて上記難海性銀 塩粒子を基根に接着させることを特徴と 器用被菌素子の製造方法。

3、発明の詳細な説明

本発明は市販浄水器に被曹機能を付加させると 目的としている。ずなわち都市の水道水 塩果ガスタよびカルキなどを浄水器中の活性炎で 除去したもとの濾過水の殺菌を目的として、 塩化銀あるいは臭化銀あるいはヨウ化銀の水に難 海性の銀塩を用いた浄水器に激置機能を付加させ るととを目的としている。

現在市原の浄水器には鉄道機能を有するものは

- (1) 活性炭が濾布の表面に有効にブリコートされたもの以外の活性炭は濾布層を有するカートリックの下部に沈降し、その沈降した活性炭に吸着または混合された塩化銀はほとんど利用されない。
- (2) 括性炭の真比重は 2.0で見掛け比重は約0.20である。一方塩化銀の真比重は 5 である。 とのように比重が大きく異なるため塩化銀の粉末は活性炭と分離し、確布層を有するカートリッジの下部に沈降するため塩化銀の利用率は悪るくなる。 また細菌を殺菌する必要な一定量のAFイオンを常に溶出させることが困難である。
- (3) 仮りに塩化銀を含んだ活性炭が濾布層の表面 に ちっと ゴリコート されたとしても、 初期の Ast イオの 博出量が大きいので使用とともに Ast イオンの 専出量が急激に減少する 傾向を示す。 この 原因は二つ 考えられる。 そのひとつは 音性炎の表面が 真雑物により アリコート され、 その 行れない Ast イオンの 帯出が減少する と 考えられる。 また他のひとつは 哲性炎の 表面に 塩化酸

5 🤼

である。

以下、本発明の一実施例を図面とともに具体的に説明する。

図にないて、1は密閉された円筒状のケースで、 ケース本体2と薪3とからなり、ケース本体1の 医療には水道に連動する能入孔 4 を設け、 叢 3 の 中央には蛇口5を回転可能に設けている。6はケ 1 内に収納したカートリッジで、合成樹脂に より密閉された円筒状に形成しており、その下面 尺端通孔で、アを設けている。 このカートリッジ 6とケース1との間には間隙8を形成している。 日はカートリッジの内に収納した確遇体で、細長 い長方形状に形成した目の粗い多孔性の樹脂製骨 材10を樹脂繊維からなる目の細から布裏の藏布 11で包み、その第日部は製脂装着剤により期毒 している。この説過休日の中央には樹脂製集水管 12の下部を振入してかり、集水管12の譲進体 9 内に位置する部分には多数の集水孔:1 3 を設け ている。との撤退休日は第2回に示すように統行 「秋に折曲した状態でカートリックの内に収納する。

特別 昭49-64243(2) を敬着させる既に厚く吸着させると活性数そのものの性能が被少し、浄水器として用いられない。また淳く吸着させるとしても、初期に多量裕解し、活性数の寿命より先に塩化銀がなくなる可能性がある。

- (4) 品質管理上活性炭がどの程度吸着されているか否かをテェックすることが極めて困難である。 (5) 塩化銀の徴解な数子が濾過水中にコロイド状で流出し、飲料水として飲む危険性が考えられる。
- (B) 家庭用浄水器の敷留効果は確布の括性炭質すなわち、原水側では塩果またはカルキが存在するため敷留剤を扱入する必要はない。細菌の無強するのは乾燥過水の通過する市内の集水側で 17味労ある。

以上のように塩化銀の性質与よび浄水器の構造上の特徴を考慮して、本発明では市販浄水器の減速水質(建布と集水管が一体となったものは減布の集水管の近辺)に設けられて細菌を殺菌する冷水器に有用な被潜流子の製造方法を提供するもの

そして集水管12は上端がカードリッジ8を貫通 して蛇口5K連結されている。 14はカートリ ジョウに入れた活性炭粉末である。 1 5 は活性炭 粉末14がカー ┡ リッジ8外へ編出しないように 産通孔で、アを閉塞したシールで、通常は普通の 紙と同じ性質であるが水に濡れると数秒間で溶解 してしまりものである。10はケース1の上部に 設けた空気抜き孔、17はその後体、18はカー トリッジの一の上部に設けた空気抜き孔、19は空 気抜き孔18を閉塞したフィルタである。 とのフ 4 N タは空気と水は通過させるが、后性炎粉末14 は通過させない程度の多孔性を有する。20は段 曽 剤 と し て の 難 溶 性 銀 塩 粒 子 を 接 着 剤 を 介 し て 基 板に接着させたフィルム状の畝薗楽子であって、 これは借脂製骨材10の一部に折込まれている。 との 紋菌素子 2 〇 は 第 6 図 (e) に示すように 可換性 基板 21 に 樹脂 嶽 着 剤 22を 介して 羅 啓 性 銀 塩 粒 子23を接着したフィルム状のものである。 これ 復贈接着剤2.2に接着されて濾過水と接触す るように影響性領域粒子23が表面に露出した機

造となっている。

つぎに浄水器の動作について脱明する。水道か らの水が施入孔4から供給されてくるとまず水管 性のシール18、18が終湃して旅遊孔で、てか 開口する。そのため水道水は筬通孔で、てからカ ートリッジ8内に入って活性炭粉末14を攪拌し、 ついで濾過体目内へ通過する際に活性炭粉末14 を撤退休日外表面にブリコートし、譲退休日外表 面には盾性炭粉末層ができる。そのため水道水は 活性炭粉末層14に瀘過されることになり、水中 に含まれているカルキ。塩紫ガスなどが除去され. る。その認識後の水は湖湖仏の内を通り、集水響 12の集水孔13部分に集められたのち、集水管 12を通って蛇口るから外部へ供給される。一方、 集水管12近くの濾過休の内かよび必要に応じて その他の部分にも配置した表面熱点配が影能機機30 は於々に水中に溶解し、その人がイオンが浄水器 内にかける殺菌を行なり。そのための浄水器内に 菌が繁殖するかそれもなくなる。とのような難答 性銀塩粒子を樹脂接着剤を介して接着した装備業

エポメートB-002を40りから成るものである。 ついて、上記接着刺22の上に塩化銀粒子23を ふりかけて、マイラフィルム24を用いて加圧ロ 一 ラ 2 5 で 上 記 塩 化 銀 粒 子 2 3 を 上 記 接 潜 剤 2 2 中に押し込んで、上記塩化銀粒子23を樹脂接着 剤に圧着させる。その後、余類の塩化銀粒子23 を扱動を加えて除去し、100℃で2時間硬化をせ て完全に塩化銀粒子23を接着させる。との硬化 条件は使用する樹脂接着剤22が常温硬化型のも のであれば加熱する必要がない。しかる後、接着 強度の弱い塩化鉄粒子、すなわち、接着剤に保持 されなかった塩化銀粒子はワイャブラシ(図示せ ナ)を用いて強制的に除去する。 とのようにして 得られた波蘭素子20は、塩化袋粒子が0.012月 /om² 程度付着していた。との塩化銀粒子は3の 付着量は、樹脂接着刺22の厚み、塩化銀粒子23 の粒径を制御するととによって、容易に制御する ことができる。しかし、これは技法する塩化銀の 銀の待出量に余り関係しないので、鉄造上の大き

な問題とならない。との数菌素子を種々の大きを

子を内蔵した浄水器を上下道に実際にとりっけ、 2 4 時間経過後の濾過水の初溜分中の Ag<sup>+</sup> イオン 議度を調べてみると 4 5 PPb であった。この Ag<sup>+</sup> イオンの存在する濾過水中に大腸 苗 (Escherichia Coli K-IZ-A)を 6 × 1 O<sup>8</sup> 個 /ml の海底に調券

し大腸菌を浄水器に添加すると添加後の時間で大

勝菌は完全に死骸していることが確認できた。

特開 昭49-64243(3)

10

のものに切断して浄水器の灌通体 B の樹脂製骨材 1 〇に取付けて Ag+ イオンの答出量を求めた。下 表はそれぞれの大きさの液態来子にかける時間に 対する Ag+イオンの容出量を示している。

溶出時間	Agolの付着面積	Apolの絶対付着量	Ag+イオンの港出量
(hr)	(cm²)	<b>(y</b> )	(ppb)
3	.18	0.248	45
8	18	0.243	45
18	18	0.243	45
15	9	0,120	46
1 5 ·	\$2	0,425	. 45
1 5	90	1.200	46

Ag+ イオンの溶出量は、ペックマン社製の原子 吸光分析器を使用して、原子吸光分析によって求めた。

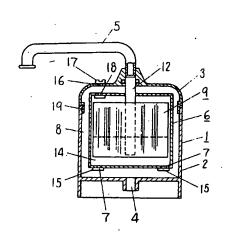
上記実施例では、殺菌剤としての塩化銀粒子を接着剤を介して基板の片面に形成する方法で製卵を行なったが、間様にして基板の両面に形成できることは云うまでもない。

以上の説明から明らかなように本発明によれば 当板に接着前を用いて難溶性候塩の粒子を強く基板に保持 ているので、観溶性候塩の粒子を強く基板に保持 することができ、又接着剤によって難溶性候塩の 粒子を強く保持するととながきる。したがっと との数据素子は浄水器に収納されて水圧などによ この数据素子は浄水器に収納することができる。 このない、又蒸着などの手段によって得たもの。 比較して創業の問題を皆無とするととができる。 また、活性炎と温合する手段と比べて利けイオン の溶出量が安定した被菌素子を提供できるなどの

#### 4、 図面の簡単な説明

第1回は本発明にかかる浄水器の新聞園、第2回は同浄水器の確適体の新視図、 第8回はその中央新図図、 第4回かよび 第5回はそれぞれの被害 米子の取付状態を示す確遏体の拡大平面図、 かよび 拡大新聞図、 第6回 & ~ 。 は本発明の一実施例を示す浄水器用教習素子の製造方法を説明する図である。

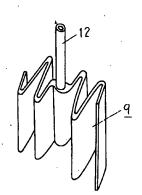
第 1 図



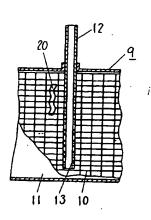
服装差别。 2.3 … … 服存性禁塩粒子。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 飲 男 ほか1名

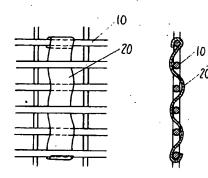
第 2 図

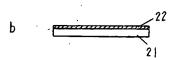


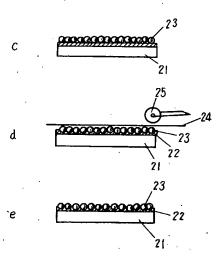
第 3 図



5 図







#### 6 前記以外の発明者および代理人

(1) 発明者

大阪府門真市大学門真1006番地松下電器產業株式会社內 住

カワ

(2) 代理人

大阪府門真市大字門真1006番地 住 · 所

松下電器産業株式会社内。

松下电磁压来收入 (6152) 弁理士 栗 野 重 孝

# HEAT-FUSION CORE CLOTH AND MANUFACTURE THEREOF

(Netsuyuchaku Shinji oyobi Sono Seizo Hoho)

Zenji YOSHIDA and Hitoshi GOTO

UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE
Washington, D. C. March 2007

Translated by: Schreiber Translations, Inc.

Country : Japan

Document No. : 51-67462

Document Type : Kokai

Language : Japanese

Inventor(s) : Zenji YOSHIDA

Hitoshi GOTO

Applicant : Nippon Vilene Co., Ltd.

<u>JPC</u> : 47 DO

24(5) B5

<u>IPC</u> : D 06 N 7/04

B 32 B 17/12

C 09 J 3/14

Date of Filing : December 5, 1974

Publication Date : June 11, 1976

Foreign Language Title : Netsuyuchaku Shinji

oyobi Sono Seizo Hoho

English Title : HEAT-FUSION CORE CLOTH

AND MANUFACTURE THEREOF

#### SPECIFICATION

- I. Title of the Invention
  - Heat-Fusion Core Cloth and Manufacture Thereof
- II. Claims
- 1. A heat-fusion core cloth (lining cloth), which is made by applying two kinds of adhesive, i.e., a hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive to a base cloth so that the two adhesives are fused at least during heating and applying pressure.
- 2. A manufacturing method of the heat-fusion core cloth, wherein one of two kinds of liquid adhesive, i.e., a liquid hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive is coated on a base cloth and dried, and then another adhesive is coated and dried.
- III. Detailed Description of the Invention]

This design relates to a heat-fusion core cloth, and its purpose consists in providing a heat-fusion core cloth that gives excellent dry cleaning resistance and high-temperature

<sup>1</sup>Numbers in the margin indicate pagination in the foreign text. washability under press conditions of about 150°C and 10 sec and good adhe-sive strength and also has excellent storability.

Core cloths given by applying a thermoplastic adhesive to a base cloth such as woven fabric, non-woven fabric, etc. have fusion core cloth known for clothing before. as Polyamides, polyethylene, polyvinyl chloride, polyvinyl chloride-ethylene copolymer, etc. are generally used as thermoplastic adhe-sives for these core cloths. However, all the adhesives are thermoplastic and have such disadvantages that a peeling trouble occurs when they are washed at high temperatures or heated with-out applying a pressure, and the dry cleaning resistance is also not enough.

To improve these disadvantages, the use of hot-melt curing adhesives was proposed in place of the thermoplastic adhesives. Resins are cured by cross-linking reactions during melting adhesion by heating to improve said disadvantages of thermoplastic adhesives. However, the hot-melt curing adhesives have such a dis-advantage that the curing based on cross-linking reactions under common press conditions, i.e., press/2 conditions of 150°C and 10 sec is insufficient and a good adhesive strength is not obtained. Conversely, if a considerable

amount of curing catalyst is used to cause a sufficient crosslinking reaction under the common press conditions, it has such a disadvantage that the cross-linking reaction proceeds with a lapse of time and impairs the storage stability of adhesive.

The present invention improves all these disadvantages and provides a heat-fusion core cloth that gives excellent high-temperature resistant washability and good adhesive strength as well as has excellent storage stability.

Namely, the present invention is a heat-fusion core cloth made by applying two kinds of adhesive, i.e., a hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive to a base cloth so that the two adhesives are fused at least during heating and applying a pressure.

The present invention is characterized by the fact that a hot-melt curing adhesive and a curing catalyst of said adhesive are applied to a base cloth, respectively so that a cross-linking reaction thereof does not occur under heating and applying a pressure, and a thermoplastic adhesive having excellent initial adhesive strength is used as a medium for applying this catalyst, and it eliminates the disadvantages of the thermoplas-tic adhesive and the hot-melt curing adhesive.

As base cloths used in the present invention, any materials used as core cloths may be used, and woven fabrics or non-woven fabrics are commonly used.

As hot-melt curing adhesives, for example, copolymers containing a reactive group such as glycidyl, methylol, alkoxymethyl group, etc., and resins thermally stable at a temperature near to normal temperature are also used unless a curing cata-lyst is added.

catalysts, carboxylic anhydrides, boron trifluoride monoethylamine, p-toluene sulfonic acid, titanium acetyl acetate or their mixture may be used when acrylonitrile-alkyl acrylate-styrene-glycidyl methacrylate copolymer is used as a hot-melt curing adhesive; and p-toluene sulfonic acid, magnesium chloride, maleic anhydride, propanolamine hydrochloride or their mixtures may be used when an acrylonitrile-alkyl acrylate-styrene-butoxymethyl acrylamide copolymer is used as a hot-melt curing adhesive. Anyway, the curing catalyst should be properly selected in accordance with the employed hot-melt curing adhe-sive and is applied separately from the hot-melt curing adhe-sive, therefore it is important to select a good catalyst with a reactivity as strong as possible. This is because a cross-link-ing reaction occurs under common

press conditions to give a suf-ficient adhesive strength by use of a good catalyst.

On the other hand, existent thermoplastic adhesives for fusion core cloth, such as polyethylene, polyamides, polyvinyl chloride, etc. are adopted as thermoplastic adhesives used as media for applying these curing catalysts separately from the hot-melt curing adhesives. More preferably, thermoplastic adhesives having a similar composition as resins employed in the hot-melt curing adhesives may be used. This is because the two adhesives are fused extremely easily during heating and applying a pressure and the cross-linking reaction of a curing catalyst and a hot-melt curing adhesive proceeds smoothly.

The two adhesives selected in the above manner are coated on a base cloth, respectively. It is carried out by using conventional well-known techniques, e.g., roller coating, spray coating, screen coating, etc. as specific means. Off course, the two adhesives may also be coated by pasting the adhesives made into films or making them into powders and then scattering. The coating order and method of the two adhesives are not specially restricted, but the two adhesives may not be fused before heating and applying a pressure or applied as they are separated during heating and applying a pressure. Specific coating shapes are shown in Fig. 1 ~ Fig. 8.

The present invention is described in more detail by giving actual examples and referential examples below.

#### Actual Example 1

A hot-melt curing copolymer resin having a composition of acrylonitrile 42 wt%, n-butyl acrylate 45 wt%, styrene 9 wt% and

/3

glycidyl methacrylate 4 wt% was polymerized in an acetonetoluene

mixed solution. The intrinsic viscosity of this resin was 0.370 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution. A thermoplastic resin having a composition of acrylonitrile 44 wt%, n-butyl acrylate 46 wt% and styrene 10 wt% was polymerized separately in an acetone-toluene mixed solution. The intrinsic viscosity of this resin was 0.350 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution.

The above hot-melt curing copolymer resin solution was diluted with acetone, coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 16  $g/m^2$  by solid and then dried. The above acetone-diluted thermoplastic resin solution containing 10 wt% of p-toluenesulfonic acid to the solid of above thermoplastic resin is coated thereon by spraying so that it became 9  $g/m^2$  by solid and then dried.

The resultant fusion core cloth exhibited excellent properties as shown in a separate table.

# Actual Example 2

A hot-melt curing copolymer resin having a composition of acrylonitrile 35 wt%, ethyl acrylate 55 wt% and butoxymethyl acrylamide 10 wt% was polymerized by emulsion polymerization process.

The solid concentration of this emulsion was 45 wt%. The intrinsic viscosity of this resin was 0.330 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution. A thermoplastic resin having a composition of acrylonitrile 42 wt% and ethyl acrylate 58 wt% was polymerized. The solid concentration of this emulsion was 46.3 wt%. The intrinsic viscosity of this resin was 0.360 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution.

The above hot-melt curing resin emulsion was coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 8  $g/m^2$  by solid and then dried. The above emulsion containing 10 wt% of 1:1 mixture of magnesium chloride and maleic acid by solid was coated thereon by spraying so that it became 8  $g/m^2$  by solid and then dried. The above hot-melt curing resin emulsion was coated thereon by spraying so that it became 8  $g/m^2$  and then dried.

The resultant fusion core cloth was finally dried with a hot air dryer of  $100^{\circ}\text{C}$ .

The resultant fusion core cloth exhibited excellent result as shown in the separate table.

# Actual Example 3

10 wt% p-toluenesulfonic acid by solid was included in the thermoplastic resin emulsion obtained in Actual Example 2, then dried and made into a solid form. It was crushed by a pulverized to make into particles of 150  $\mu$  or less.

30 pt (abbreviation of "part by weight") was added into 100 pt of the hot-melt curing resin obtained in Actual Example 2 and further thickened by adding 40 pt of a 8% solution of a tackifier Noigen DS-601 made by First Industrial Pharmaceutical Co., Ltd.) there into.

The above thickened solution was coated on a non-woven fabric by a screen textile printing machine so that the solid content became  $22 \text{ g/m}^2$  and then dried.

The resultant heat-fusion core cloth was dried with a hot air dryer of  $100^{\circ}\text{C}$ .

The resultant fusion core cloth exhibited excellent result as shown in the separate table.

# Reference Example 1

The above hot-melt curing copolymer resin solution was diluted with acetone, mixed with 5 wt% of p-toluenesulfonic acid

to the resin solid, coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 25  $g/m^2$  by solid and then dried.

The resultant fusion core cloth exhibited sufficient storage stability as shown in the separate table./4

#### IV. Brief Description of the Drawings

Fig. 1 ~ Fig. 6 are schematic sectional views of the present invention, Fig. 7 ~ Fig. 8 similarly show plane views, in the drawings, a sign 1 represents a base cloth, 2 a hot-melt curing adhesive, and 3 a thermoplastic adhesive containing a curing agent.

Table Adhesive Strength (kg/5 cm width)

	Condition	Initial	After 5	After
		Adhesive	times	Wash for
		Strength	Dry	90 min at
			Cleaning	60°C
Actual Example 1	A	2.3	2.7	2.0
	В	2.2	2.6	1.9
Actual Example 2	A	2.5	3.0	2.4
	В .	2.3	2.8	2.0
Actual Example 3	A	2.8	3.0	2.5
	В	2.6	2.7	2.3
Reference Example 1	A	1.2	1.6	1.0
	В	0.7	0.4	0

#### Condition

A: Bonded 1 day after preparation of adhesion core

B: Bonded 90 days after preparation of adhesion core (in a constant-tempera-ture constant-humidity container of temperature  $50^{\circ}$ C and relative humidity 80%)

### Bonding conditions

Bonding temperature 150°C

Pressure

 $0.3 \text{ kg/cm}^2$ 

Bonding time

10 sec

Fabric for pasting

Tropical (Tetron 45%, wool 55%)

Metsuke 150 g/m<sup>2</sup>

Dry cleaning

perchlene solvent was used

Washing:

a household neutral detergent and a

household electric washer were used.

Fig. 1

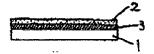


Fig. 2



Fig. 3





Fig. 5

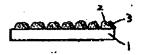


Fig. 6



Fig. 7

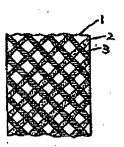


Fig. 8

